

皆さん、おはようございます。まずは、今日も体育館にシートを引いてくれるなど、会場の準備をしてくれた運動部の部員の皆さんにお礼申し上げます。いつもありがとうございます。こうして皆さんの前でお話するのは、10月11日の後期始業式以来ですね。その時、お話ししたのは、「10月29日に創立50周年記念式典がある。当日の主役は、間違いなく皆さん在校生。主役の自負と誇りを持って、お忙しい中、来てくださるご来賓や先輩、旧職員の皆さんに、千里高校生の素晴らしい姿を見せてほしい。50年を迎えた千里高校の答えが、今の皆さんの姿だよ。」ということでした。そして皆さんは、立派に答えを出してくれました。

生徒会代表の堂々とした立派な挨拶。フォークソング部のビートルズナンバー。ビートルズ世代ど真ん中の方々もたくさんおられる中、GOOD CHOICEでしたよ。続いて、吹奏楽部の壮大な演奏。あのショスタコーヴィッチは、今も私の耳に残っています。そして吹奏楽部をバックにした音楽選択の皆さんの「ハレルヤコーラス」。混声4部合唱の響きは、荘厳でした。そしてフィナーレでの、全員での「翼をください」。素晴らしい一体感に包まれて、式典は、終了しました。併せて、ダンス部や茶道部の皆さんの、心のこもったご来賓の案内や湯茶の接待。美術部の皆さんが作ってくれた「千里高校50年のあゆみ」のパネル展示。センスあふれるデザインでした。記念タオルやバッジのデザインも素敵でした。バッジは、こうして毎日つけています。当日、ご出席いただいた多くの方から「松本さん、よかったよ。千里の生徒は、やっぱりええな。」口々にお褒めの言葉をいただき、とても幸せでした。ありがとうございました。

さて、昨日12月21日は、冬至でした。冬至にちなんで、皆さんは、大根を食べたり、ゆず湯に入ったりしましたか。私は、ゆずバブに入りました。ちょっと贅沢に、2個入れました。冬至は、一年で一番、日照時間が短い日です。ということは、冬至を過ぎると、一日一日、日が長くなります。まだしばらくは、かかると思いますが、これから、朝、学校に来るときとか、夕方、学校から帰るときに、「あれ、今日はなんだか、昨日より明るくなっているな。」と、感じることでしょう。私は、寒い中にも、日に日に春の訪れを感じることができる、これからの季節が好きです。さて、ここで問題です。「冬至を過ぎ、日が少しずつ長くなって春の訪れを感じる。あるいは冬至そのもの。」を表す四字熟語は、何でしょうか。もちろん答えは、「一陽来復」ですね。

話は、変わりますが、私は、先日、あるアニメの聖地巡礼に行ってきました。そのアニメとは「3月のライオン」。中学生で将棋のプロ棋士となった高校生が主人公のアニメです。将棋ですので、東京千駄ヶ谷にある日本将棋連盟「東京将棋会館」に行ってきました。ちなみに日本将棋連盟「関西将棋会館」は、大阪環状線の福島駅の近くにあります。その記念に、この扇子を買ってきました。棋士の方は、揮毫といって、扇子や色紙に自分の座右の銘を、よく書かれます。これは、今年5月に当時の羽生善治名人を破り、28歳の若さで名人位についた佐藤天彦名人の揮毫で、「王道」と書かれています。

「王道」といえば、「幾何学に王道なし」という言葉があります。

“There is no royal road to geometry.”

古代エジプトの王様プトレマイオスが、数学者のユークリッドに「幾何学を学ぶのに簡単な方法はないか。」と尋ねた時のユークリッドの答えです。このときの「王道」すなわち「royal road」とは、王様が歩きやすいように、舗装された「楽な道」という意味です。「幾何学を学ぶのに、そんな楽な道はない。地道に、こつこつ取り組みなさい。」ということでしょう。

ただ、「王道」には、別の意味もあります。孟子が説いた、儒家の理想とする政治思想で、仁徳に基づく政治という意味です。転じて、今は、「正攻法」とか「正しい道」という使い方もされているようです。佐藤名人は、もちろん、後者の意味で、将棋の駒の「王将」になぞらえて、書かれたと思います。若き新名人の大いなる自負と覚悟がうかがえる言葉ですね。皆さんの学習においても、「王道」(=royal road)は、ありません。千里高校生としての大いなる自負と覚悟を持って、地道に、こつこつと正攻法で取り組み、「王道」(=「正しい道」)を歩んでください。そうすれば「一陽来復」。必ず春は、やってきます。

何とか、伏線を回収できたところで、ではまた、1月に、元気な姿でお会いしましょう。

“I wish you all a Merry Christmas and a Happy New Year. See you.”